

# 実践例「学習指導の深化・充実」 「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実」

## I. 学校名 別海町立中西別小学校

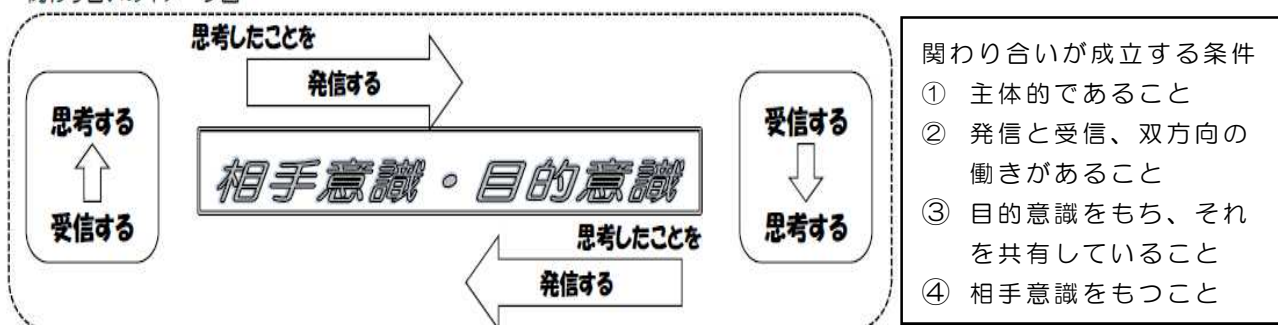
## II. 研究の概要

本校では平成28年度に研究主題を「主体的に関わり学び合う子どもの育成」と設定し、基礎・基本を活用した伝え合う活動に重点を置きながら研究を推進している。

「主体的に〇〇する子ども」とは、問題に遭遇した時、自らの力によって解決し、学び続けようとする子であり、学習時には興味・関心をもってよく見たり、考えたりして、自分の考えをつくりあげようとする姿である。主体的な学習者を育てるためには、「おやっ」「何かが変だぞ」「やってみたい」と感じる内発的動機付けがある授業を工夫し、子どもが主体的に取り組める学び方の手順を示し、学び方を身に付けていくことが大切である。

そこで、授業における主体的な発信と受信による双方向のはたらきを「関わり合い」と定義し、関わり合いが成立するためには「相手意識」と「目的意識の共有」が不可欠であり、この2つを意識することが関わり合う力の育成につながると考えた。

～関わり合いのイメージ図～



また、「学び合う」とは、自分の考えを言葉や式、図、操作などで表現することによって互いの考えを伝え合い、課題のよりよい解決に向けて練り上げていく活動と考えた。学習過程の「深める」段階において集団解決の場で友達と関わり、多様な見方や考え方に触れながら、互いの考えを広めたり深めたりして共有化することで、より理解を深めることができると考える。

このような関わり学び合う条件を土台とし、その力をさらに高めていくためにはどのような手立てが必要で、学習活動や発問・指示などを工夫し、実践していくことが本研究の大きな目的の1つとなる。

このような研究の推進を通して、以下の3つの視点を実現する子どもの姿を目指していく。

- ① 「主体的な学び」を実現する子どもの姿
  - ・興味・関心を高める
  - ・自分と結び付ける
  - ・見通しをもつ
  - ・振り返って自覚する
- ② 「対話的な学び」を実現する子どもの姿
  - ・多様な情報を収集する
  - ・共に課題を解決する
  - ・多様な手段で表現する
  - ・共に考えを創り上げる
- ③ 「深い学び」を実現する子どもの姿
  - ・課題を発見する
  - ・知識を活用する
  - ・解決の方向性を見出す
  - ・知識を習得する



- ・ 思考し解決に向かう
- ・ 知識を構造化する

### Ⅲ. 実践例

#### 1 主体的な学びの実現に向けて

学習過程の「つかむ」段階において見通しをもたせるためには、前時までの学習とのつながりを明確に意識させることが大切である。つながりが明確な場合、子ども達はすぐに予想を立て、解決の方策を見出すことができる。

学習過程の「考える」段階においては、教科書やノートで振り返る手立てが有効である。教科書やノートは子ども達の武器となり、自ら進んで教科書やノートをめくる姿は、自分で解決したいという思いの現れである。自立的な学習が求められる複式の授業においては、発達の段階に応じた教科書の扱い方やノート指導が一層大切になってくる。



前時の学習を教科書で振り返る様子

#### 2 対話的な学びの実現に向けて

##### ① 共に考えを創り上げるための工夫

学習過程の「深める」段階においては、3人組「トリオ」での考えの交流を位置付け、「何を交流するのか」「何を話し合うのか」を明確にすることを継続的に行うことで、子ども達が話し合う必要性や話し合う楽しさを自覚していくことができる。

学習経験の積み重ねも大切であるが、授業者が子ども一人一人の考え方、思考の流れ、タイプを把握しながら、的確な声掛けや指導、支援を行うことで、子どもは「伝えたい」「〇〇の考えを知りたい」という思いをもつようになる。



トリオで交流する子どもの様子

##### ② 交流の視点の提示に関する工夫

国語の交流は感想を述べ合うものではなく、書いたものを読み合い比べることにより、題材や事柄の順序、登場人物の特徴が合っているかどうかを検討することが目的である。そのため、交流の視点を書いたカードを提示することで、互いに具体的に認め合ったり、助言し合えたりすることができる。



話し合い広場で交流する子どもの様子

#### 3 深い学びの実現に向けて

学習過程の「考える」段階における個人思考の時間において、多くの授業者はつつい子ども達の学習に口を出してしまう。算数的活動において「何をどう操作するのか」「何をどう考えるのか」の道筋を予想し、ここぞという時に、その子に対してだけ（でも、周りの子も密かに巻き込むような音量で）声を掛ける。深い学びを実現するためには、思考する時間を保障し、子ども達の考えやつまずきを具体的に予想することが不可欠である。



周りの子を巻き込む個別指導の様子

### Ⅳ. 成果と課題

#### 1 実践の成果

授業において子ども達が関わり合うための手立てが、主体的で対話的な学びの実現を図る授業改善につながった。

#### 2 実践の課題

学びを深めるためには、子ども達の発表や思考を整理する板書の構造化や、発言をつなげ、話し合いを深めるための聞く力の育成が必要である。